

国際学会報告

第14回アジア太平洋州畜産学会(AAAP)参加報告

鈴木 崇司

酪農学園大学大学院 酪農学研究科
〒069-8501 江別市

2010年8月23日から27日までの5日間、台湾南部にある国立屏東科技大学で第14回アジア太平洋州畜産学会(AAAP)が開催された。AAAPは1980年に始まり、これまでにマレーシア(1980年、2004年)、フィリピン(1982年)、韓国(1985年、2006年)、ニュージーランド(1987年)、タイ(1992年)、インドネシア(1994年)、日本(1996年)、オーストラリア(2000年)、インド(2002年)、ベトナム(2008年)で開催されている。台湾は1990年以来で2回目の開催となる。

今回のテーマは、“to help farmers produce high quality animal products based on no drug residue, environment friendly, animal welfare, and management.”であり、アジアを中心とした34カ国以上の国々が参加した。オープニングセレモニーでは、酪農学園大学の干場信司教授による“Based on Friendly to Earth and Animal Welfare to Support Farmers to Produce High Quality Animal Products”についての基調講演(写真1)が行われた。

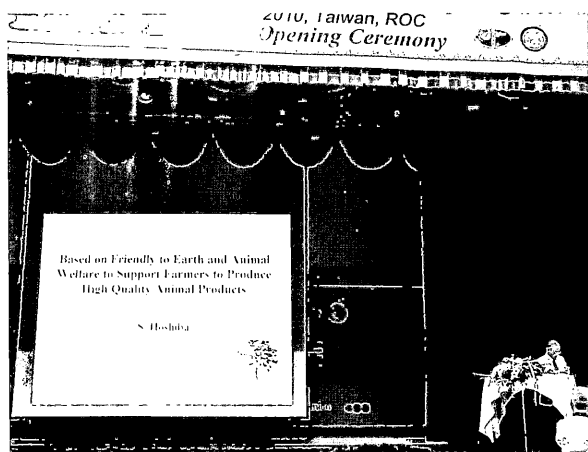


写真1. 干場信司教授の基調講演

また、Plenary Session (PS) は124題、Oral Presentation (OP) は168題、Poster Presentation (PP) は402題が以下のようなセクションに分かれ、ウシ、ウマ、ブタ、ヤギ、ヒツジ、シカ、ラクダ、トリなどの多岐の分野にわたる発表が行われた(写真2、3)。

- Breeding and Genetics (PS : 14題、OP : 24題、PP : 33題)
- Ruminant Nutrition (PS : 17題、OP : 33題、PP : 87題)
- Monogastric Animal Nutrition (PS : 22題、PP : 67題)
- Poultry Nutrition (OP : 21題)
- Pig Nutrition (OP : 9題)
- Nutrition (OP : 21題)
- Physiology (PS : 6題、OP : 6題、PP : 38題)
- Production System (PS : 9題、OP : 6題、PP : 13題)
- Utilization and marketing of animal products (PS : 13題、OP : 15題、PP : 38題)
- Biotechnology (PS : 6題、OP : 8題、PP : 27題)
- Reproductive Technology (PS : 7題、OP : 8題、PP : 23題)
- Animal Health (PS : 11題、OP : 3題、PP : 19題)
- Animal Behavior and Welfare (PS : 4題、PP : 12題)
- Welfare and economics of Livestock Production (OP : 3題)
- Feed Technology and Livestock Environment (OP : 4題、PP : 28題)
- Pasture Management (PS : 4題、OP : 4題、PP : 12題)
- Waste Management (PS : 8題、OP : 3題、PP : 5題)
- Education and Extension (PS : 3題)

栄養や繁殖に関するテーマが多くみられ、その他関連する9つのサテライトシンポジウムも開催されていた。私自身はバイオガスに関するポスター発表だったため(写真4)、同じ分野の発表が少なかったのは残念であったが、このような大きな国際学会で発表するのは初めてであり、大変貴重な経験となった。

学会の中日の25日には、4種類のツアーが用意されていた。どれも魅力的なものであったが、今年日本で口蹄疫が発生したこともあり、私は家畜に関わるツアーではないものを選択した。東港の寺院(写真5)、漁業文化センター、大鵬湾国立公園(写真6)のツアー

に参加した。漁の歴史や文化は興味深く、なにより昼食の魚料理はとても美味しかった。夕方頃にはよく雷と大雨になるので、見学順序を急遽変更したり、行くはずだった魚市場には行かなかったりと慌ただしいツアーであった。

フェアウェルディナーでは、過去の開催国の出身者が順番にステージにあがり、自国の歌や踊りを披露し

た。日本人はカラオケで歌を歌ったり、全員で Sukiyaki (上を向いて歩こう、坂本九) を合唱した。一番盛り上がったのは、開催国である台湾のダンス (写真7) であり、会場全体を巻き込むほど盛大であった。

北海道からは直行便で台北に約4時間で着くことができ、台湾の南北を1時間半で移動できる新幹線は便利であった。この新幹線は日本の車両技術を導入した



写真2. 室内の涼しいPS、OP会場



写真5. 東港の寺院前での集合写真



写真3. 屋外で暑いPP会場



写真6. 大鵬湾国立公園 (熱心に説明を聞いている? 森田先生と泉先生)



写真4. 最終日だったため、人があまりいないPP会場



写真7. 中央でダンスをする台湾のHsia先生 (今回の学会の会長)

もので、日本の新幹線とほとんど同じに見えた。また、街中には日本にもある店(ファミリーマート、モスバー



写真8. 台湾の学生(左2番目:遊さん、左3番目:黄さん)と記念写真

ガー、和民やデーパート等々)があったり、スーパーやコンビニでは日本の製品がかなり置かれていたため、海外にいるのを忘れてしまうくらいであった。普段から北海道の快適な気候に慣れている私としては、強い日差しと気温そして高い湿度という環境はかなり厳しいものであったが(実際は、クーラのない北海道が一番暑かったが・・・)、親切な台湾の人々との出会い(写真8)や美味しい食べ物の数々により、また足を運びたくなる国となった。

最後に、次回のAAAPは2012年にタイで開催される。若手の研究者や大学院生の参加も多くみられ、多くの交流や刺激を受けるよい機会となるため、これまで以上に研究に励み、次回も参加したいと思う。特に、タイの勢いに圧倒されないようなフェアウェルディナーでのパフォーマンスと心構えが必要かもしれない。